

健康

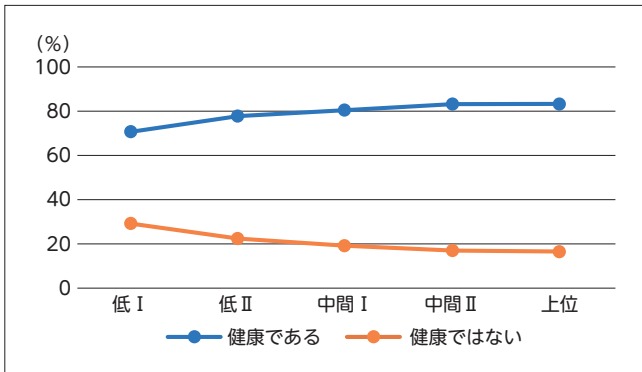
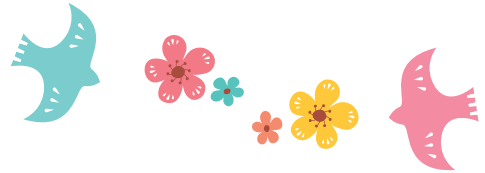


図4: 保護者の健康と経済状況

子育てをしている人の20.3%が「健康ではない」と答えています。このような人では心理的なストレス（心理的ストレス得点（K6））も高く、健康上の理由で家事や仕事などの普段の活動ができない日も多くなっていました。「健康ではない」と答える人の割合は、所得が低いほど高くなっています（図4）。

所得が低いほど、保護者が必要な医療受診を控える割合が高く、「健康ではない」と答えた人ではその割合がより高いことが明らかとなりました（図5上）。子どもの医療受診についても同じ傾向がみられますが、保護者自身と比べると低くなっています（図5下）。子どもの受診を優先しているともいえます。

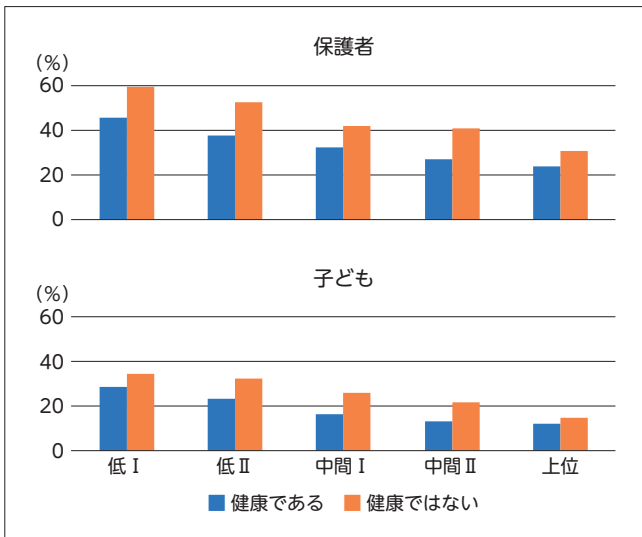


図5: 必要な受診を控えたことのある人の割合

この2つの結果から、所得が低いほど、健康の問題を抱えているにもかかわらず、お金がない、仕事が休めないといった理由で受診を控える人が多いことがわかります。子どもを支える保護者の健康を守ることが必要です。

表2: 子どもの障がいと母親の働き方

| | 障がいのある子ども | |
|-----------|-----------|-------|
| | いない | いる |
| 正規職 | 19.8% | 12.8% |
| パート/アルバイト | 43.6% | 40.9% |
| 働いていない | 21.6% | 31.6% |

発達の遅れや障がいのある子どもを抱える家族は8.0%*でした。このような家族では、母親が正規職についている割合が低く、働いていない人の割合が高くなっています（表2）。一方、父親の働き方には違いはありませんでした。子どものケアをしながら母親が働くことの難しさが、家族の経済状況の厳しさにつながる可能性もあります。（*高2を除いて集計）

日ごろ立ち話をする相手について、「いない」と回答した方は全体で9.7%でした。特に2歳児の保護者では15.6%と他の学年よりも高く、このうち低所得層Iでは28.6%と際立って高い傾向でした（図6）。

子どもを半日程度預かってくれる人は、2歳・5歳とも「非同居の家族・親せき」、「同居家族」、「保育園等一時預かり」の順で、「いない」は両年齢とも1割程度でした。保育園等の利用についてのみ、所得の高い世帯で多い傾向がありました。親の入院等のため（より長期に）代わりに子どもの面倒をみてくれる人については、「祖父母」が両年齢とも8割以上と圧倒的に多く、「いない」は両年齢とも1割程度でした。

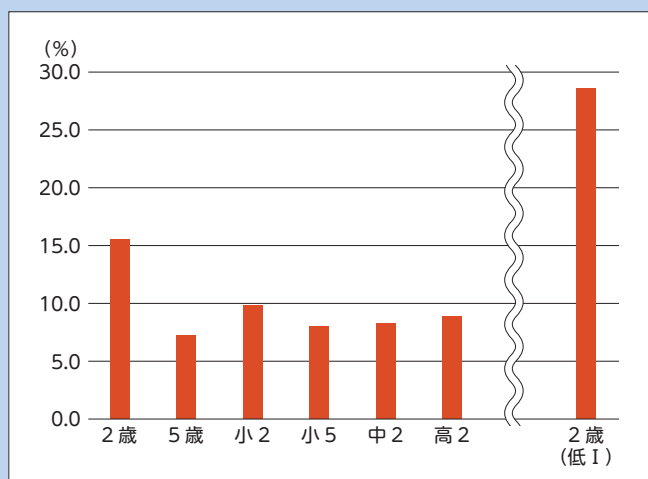


図6: 「日ごろ立ち話する人」が「いない」と回答した割合

子どものくらし

幼児

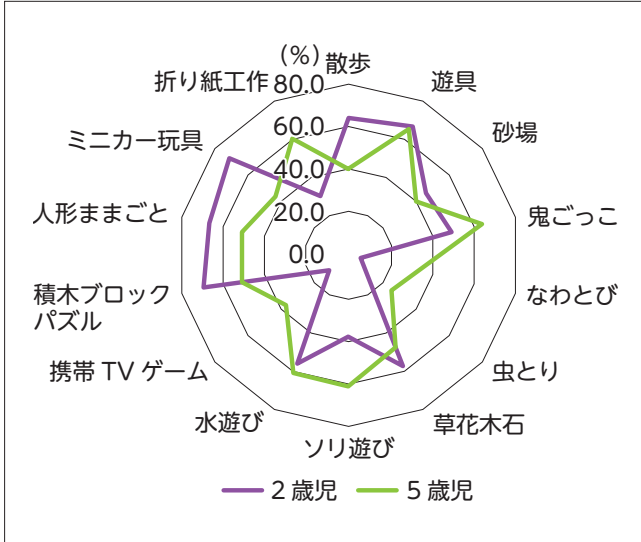


図7: 14種の遊びについて「よくする」と回答した割合 (%)

子どもの遊び

【種類】5歳になると、ミニカーや人形の遊びは減り、ものを作る、集団遊び、虫とり等が増えていきますが、「ゲーム」も37.6%が「よくする」と回答しました(図7)。脳や感覚器官が育つ乳幼児期には、電子メディアへの長時間の接触には気をつけたいところです。

【遊び場】8つの選択肢からよく遊ぶ場所を3つあげてもらうと、両年齢とも「自宅屋内」「空き地・公園」「園庭」の順でした。年齢による違いがあったのは「ショッピングセンター」(2歳23.7%, 5歳14.7%), 「園庭」(2歳52.4%, 5歳80.5%), 「子育てひろば・サロン」(2歳19.5%, 5歳1.3%)でした。

【遊び相手】近年、乳幼児の遊び相手として、「母親」の負担が大きくなっていることが知られています。この調査でも、休日に「よく遊ぶ」のは母親が一番多く2歳児75.1%(父親59.2%, その他家族41.5%), 5歳児48.8%(父親42.6%, その他家族42.4%)でした。

子育て支援

子育てひろばやサロンは、2歳児世帯の86.4%が「近所にある」ものの、うち43.3%が「行きにくい」と回答しました。理由は、1位「時間がない」、2位「他の親子との関りが面倒」、3位「交通手段のため」でした。

保育・幼児教育(図8)

2歳児でも、全体で60.7%が家庭外の保育等を利用していました。所得による差があり、所得が高いほど多く利用されていました。

(2歳・5歳については札幌市データのみ集計)

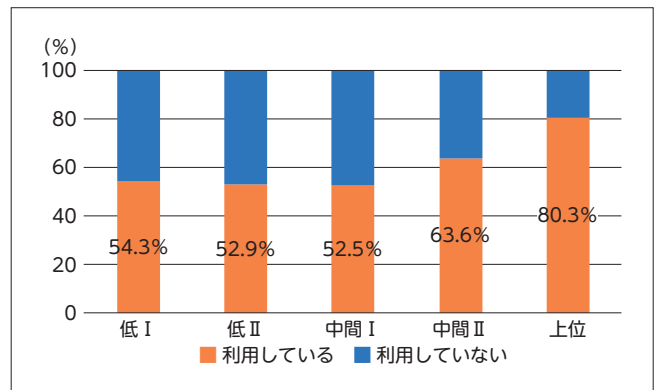


図8: 家庭外での保育・幼児教育の利用状況(2歳児)

小学生

各家庭において、自転車や勉強机など多くの子どもが持っていると考えられるものについては、所得による所有率の差はあまり大きくありませんでした。しかし、子どもと旅行やキャンプに行くといった、経済的な側面に加えて時間や手段などの資源をより必要とする事柄については、所得によって大きな違いがみられました(図9)。

また、所得が低いほど習い事や塾など学校外教育活動の利用が少ない傾向がありました。

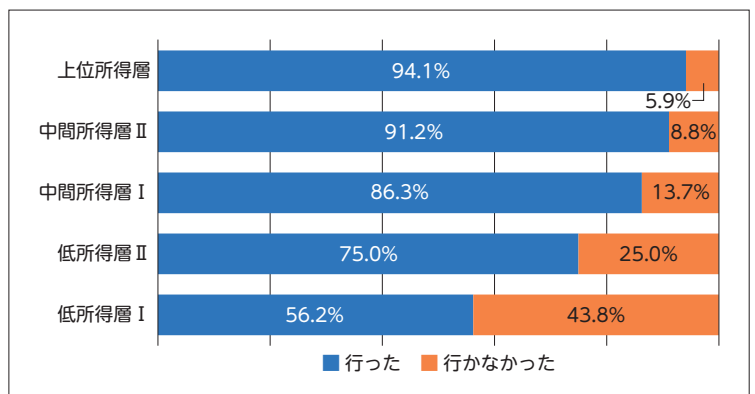


図9: 過去1年間で親子そろって旅行やキャンプに行きましたか